

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION

Vol.46/No.2 SUMMER 2025

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

SUMMER FURNACE ISSUE

「魚がいないと…」財前雄一郎さんインタビュー

Yuichiro Zaizen Interview

日本記録・世界記録

New Japan and World Records

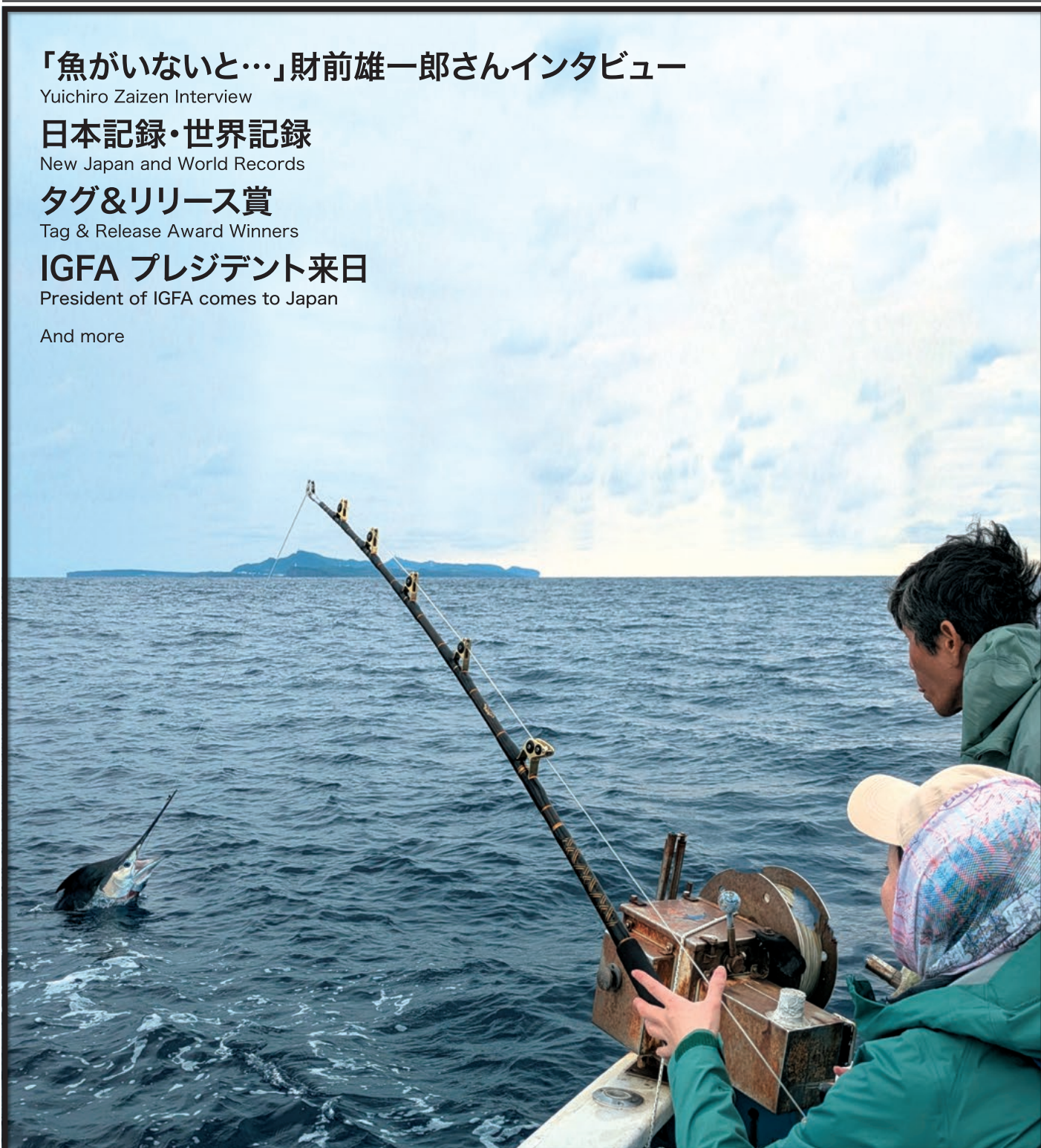
タグ&リリース賞

Tag & Release Award Winners

IGFA プレジデント来日

President of IGFA comes to Japan

And more



先日、カナダ・ブリティッシュコロンビア州の比較的ちいさな独立河川に、シヌック(=キングサーモン)を釣りに出かけました。海から遡上するサケとしてシーズンの最初を飾り、20kgを超すこともある最大魚種です(IGFAオールタックル世界記録は44.1kg)。感潮域から釣りができ、エサ釣りは許容されていませんがルアーやフライは可能。ルアーでねらうなら常識通りスプーンやプラグを投げてリールを巻いて釣ることもできますが、陸から釣る地元の人たちに圧倒的な人気なのが、捨てオモリの重たいものを使い、枝針にスピングローという回転するルアーを結んで放り込んでおくというもの。水流を受けて回り続けますので、通りかかった魚は思わず口を使ってしまうわけです。

この川におけるシヌックにかかわるレギュレーションをかいつまんで表記してみましょう。広大な国土とはいえ、淡水のレギュレーションブックだけで88ページあるのは圧倒的で、釣りが知っておくべきことも膨大です。

- 1) ビジターないし地元居住者で基本のライセンス料が異なる(ビジターは1週間でCAN\$57.17)
- 2) サーモンを持って帰らなかったらサーモンスタンプという追加料金を払う(ビジターは1週間でCAN\$34.29)
- 3) 持って帰ってよいサーモンのサイズは川によって、また遡上の状況によって、ひんばんに見直される。今回の場合は50cm以上80cm未満を1日1尾まで、年間10尾まで。自宅や釣り場に保有するサーモンの数は、いかなる場合も8尾を越えてはならない。
- 4) フックはバーブレスのシングルフックのみでエサは使用できない。

下流部では河岸にトラックを乗り付け、ロッドスタンドを据えてスピングローを投げ込み、のんびりと友達との会話を楽しみながらアタリを待つ、というスタイルの人が多かったと思います。もちろん何がなんでもフライで、プラグでという人もいて、そんな人たちをターゲットにしたガイドも大勢存在します。さまざまなスタイルが、お互いに干渉しすぎることなく、定められた規則を守って共存しているところが印象に残りました。

ジャパングームフィッシュ協会
専務理事 東 知憲



ジェイソン・シュラトウィーザーさん来日

インターナショナル・ゲームフィッシュ協会のプレジデントであるジェイソン・シュラトウィーザーさんが6月に来日され、協会を訪問して役員と会談を行いました。2020年にプレジデント(事務方のトップポスト)に選出されたシュラトウィーザーさんは2003年にインターナショナル・ゲームフィッシュ協会に就職。最初のポストは資源管理担当ディレクターでした。もともとの専門は海洋生物学と海洋学で、一貫して仕事としてきたのは魚類資源の管理および保全です。資源管理担当ディレクターとして、シュラトウィーザーさんは他団体・大学との共同研究、資源管理方針に対する提言、及び釣り人に向けた情報発信など多方面において活躍してきました。

2012年に米国で成立した「カジキ類保全法」(Billfish Conservation Act)は、インターナショナル・ゲームフィッシュ協会およびシュラトウィーザーさんの主導的な役割がなければ現実化は不可能でした。また2018年にはそれに修正条項が加えられ、カジキ類の保護に対する実効性がさらに高められました。彼は、スタンフォード大学と共同で行っている「グレート・マーリン・レース」の共同ディレクターでもあります。趣味は、自挺で出かけるシャローでのサイトフィッシングです。

彼は今回、世界をいくつかの地域に分割し、それぞれの自律性を保ちながら統一的な目標に向かって進むための「地域カOUNシル」をアジアにも設置するための打ち合わせで来日されました。アジア・カOUNシルが成立したあかつきには、スポーツフィッシングがさらに振興され、漁獲ターゲットとしてだけでなく、レクリエーションの純粋な対象としての魚たちの資源保全が進むものと期待されています。



ビジョンを次世代に

財前雄一郎さんに聞く

大分県に在住の財前雄一郎さんは、会員歴が30年を超える古参アングラ。地元にあったクラブでスポーツフィッシングの意識をたたき込まれ、現在は個人会員として活動、協会の広報委員長として牽引役を果たしている人である。地方と中央、スポーツフィッシングとミートフィッシングという視点から、これからの釣りとは協会のあり方に関するお話をいただいた。



2009年に、シーバス・フォトコンテストのフライ部門で優勝！

ジャパンゲームフィッシュ協会(以下JG)

大分県で、協会の重要ポストである広報委員長をお務めいただいております、財前さんに今回はお話を伺おうということになりました。会議などではもちろんよく顔を合わせているわけですが、細かな話を聞く機会はあまりありませんでしたので、とても楽しみにしていました。よろしくお願いします。

財前雄一郎(以下YZ) 私なんかより面白い方はたくさんいらっしゃいますのに！

JG いやいや。まずはなぜここに至るのか、個人的な年譜のようなものを伺いたいです。

YZ 入会は、たぶん93年です。その年からイヤブックがそろっているのです、おそらくそうです。入会のきっかけとしては、大分に先鋭的な会が存在して、それ

が協会に加入していたということで、私の意識が高かったとか、そういうことではありません。

JG クラブの名前は何かですか？

YZ 「バボバボ」です。スポーツフィッシングの理念を持ち、キャッチ&リリースをはじめ、必要以上に魚を持って帰って何するの？という人たちでした。大きい魚を釣るためには、小さいのは逃がしてあ



2009年シーバス・フォトコンテスト、フライ部門優勝のトロフィーとタグ&リリース年間表彰の楯です

げたほうがいいよねという理屈でに惹かれました。

JG 最初のところから、食と釣りは分離されていた。

YZ 大きな魚を釣るためには運も大事ですが、フィールドの質と資源の量はもっと重要ですね。そんなことを考えたり、平等で統一的な基準(IGFAルールやラインクラスのこと)に立って大物を釣るためにはどうすればいいんだ、となったときに、丸橋英三さんと知り合ったんです。バボバボを率いていたリーダーが、丸橋さんと知り合いでもあったようで。私が入会したときには5人、6人くらいの規模でしたが、数年間で急に20人くらいまで成長しました。その段階で、「九州でタグ&リリースを広めるようなイベントをやろう」となり、95年くらいにショアの大会からスタート。翌年からオフショアの大会として、9年間続きました。

JG 先鋭的で、意欲にあふれた取り組みですね。

YZ その頃に私は結婚したんですが、新婚旅行でコスタリカに行きました。丸橋さんたちのターポン釣りに同行です。10人くらいのチームだったんじゃないかなかったですかね。そこで、豊かな資源があるにもかかわらず、厳しいレギュレーションを課している釣り場に出会いました。衝撃的でした。釣りの初心者である妻も、ルアーで95ポンド(およそ43キログラム)のターポンをちゃんと釣りました。

JG その旅は…いろんな意味ですごいです。

YZ 『アングリング』誌にもレポートが掲載されました。

JG 奥様は、ハードな釣りごんまいで大丈夫だったんですか？

YZ 大丈夫だったかどうかはいまだにわかりませんが、たいへん楽しんでいましたよ。妻は船にあまり強くはなく、酔ってしまうこともありましたが。釣り以外になんにもないようで、自然の中の楽しみはじゅうぶんにありました。話だけで聞いていた世界を、自分の目で、体で体験することができました。帰途、乗り換えの



ANGLING 1996.4月号に掲載された、前年の釣行記。新婚旅行でしたが、妻もナイスサイズをキャッチしました。熊本から参加の中寛(ナカ・ヒロシ)さんとは今でも付き合いがあります



私の最初の世界・日本記録は2000年に釣ったスズキ4.95kg、タグ&リリースに成功しました。これ以降、シーバスの記録申請はTRが増えましたが、おそらくこれが最初だったと思います

ロスアンジェルスに戻ってきたときに現実引き返されてがっかり、という感じ。

JG 東京とか、大分の延長線上の大都市というわけですね。

YZ ロッジでは、80歳くらいのおじいちゃんもちゃんと魚釣りをしていました。掛けて、ジャンプさせて楽しんだあとはガイドにロッドを渡していましたが、自分ができる釣りをやっている。豊かですね。場所取りだ、早い者勝ちだとにらみ合ったりしない釣りはいいなあと感じました。

JG コロラド川の汽水域と、海の両方を釣るんですね？ 拠点はどこに？

YZ もう存在しないですけど、河口近くにあったカサ・マールという宿です。

JG かつてのメッカ…レフティー・クレ、ハリー・カイル、ダン・ブラントン、ビリー・ペイト、海のフライの有名人は全員といって良いくらい、通ったロッジじゃないですか。

YZ ちいさいアルミの平底船で海にも出て行くんですが、いい雰囲気でしたね。これか〜！と思いました。ターボが空気を吸う、ローリングの嵐にも出会いました。ほんとうに衝撃的で、これが豊かということなんだなあ。記事で読み、写真を見ている、現場は想像を超えていました。旅の仲間とも「実際に来てみないとわからないことってあるよね」と言い交わしました。もうすぐ私も退職なので、再訪してみたい気はあります。

JG カサ・マールのルールは、釣ってもオールリリースなんでしたっけ？

YZ 魚にダメージを与えないことに関して徹底していました。写真撮影用に、下唇にリリースギャフをかけ、船の外側

で頭を持ち上げるくらいのことはやってくれますが、船の中には入れません。その構図は鮮明に焼き付いています。記念にウロコを2・3枚くれました。

JG 40キロ、50キロの魚に小舟でわたりあうわけですから、引っ張り回されますよね。

YZ 魚の力で、航跡ができるくらい引ぎずられます。初体験でへたですからブレッシャーもじゅうぶんに掛けられていなかったんでしょうけど、あんな体験は後にも先にもないですね。

JG 衝撃のコスタリカから戻られて、ご自分の九州での釣りは？

YZ さらに魚を殺さなくなりました。それは間違いありません。当時から、スズキをやったりシイラを狙うなどしていましたが、ほとんど魚を持ち帰ったおぼえはありません。溪流でフライフィッシングもやっていましたが、リリースしてあげたほうが気分もいいです。その魚に、また出会いたいと思う気持ちはどんどん強くなりました。

JG なるほど。自分が個人的に出会った、その1尾に対する気持ちがいつもっていくわけですね。

YZ 川だと、解禁当初から次第に魚が抜かれていって、いなくなって終了じゃないですか。春先だけ行っています。私が住んでいる大分って、車で小一時間で宮崎県や熊本県との境界、つまり九州の溪流釣りの核心部に行けますから、地理的にはとても恵まれていますね。太平洋側に流れる川ですとヤマメ、瀬戸内海に入る川ですとアマゴです。イワナはいませんので、2008年くらいに長野に単身赴任したときには北岳から流れ

る川に案内してもらって楽しみました。ネチネチしたピンスポットの釣りです。

JG 九州にいないイワナは、やっぱり一度は釣ってみたい魚ですね。さて、話をバボバホさんに戻してみたいんですが…

YZ はい。最盛期は40人ちかい大所帯だったと記憶しています。先ほど触れた、キャッチ&リリースを広めるためのイベントも、福岡や愛媛の人たちに声を掛けて開催していました。当時いっしょにやっていた人たちの中には、クラブを新しく立ち上げて、協会に入ってくれてる方もいますよ。嬉しいですね。

JG ありがたいことです。

YZ 独身だった私たちも年をとり、生活環境も変わりました。釣りの現場で会う機会も少なくなりました。若い人たちの先生はネットになって、対人的なやりとりが減ってきましたね。私たちはポイントも教えてもらわないとわからなかったし、釣り方も知りませんでしたから徒弟制度みたいな感じでした。センパイに付いていって、手ほどきしてもらおう。海であれば、ポイントの形などは干潮の時にいってちゃんと勉強しとけよとか、基本の考え方をたたき込まれました。他に選択肢はありませんでしたし、苦だとも思わなかった。でも、いまの社会でそんなことを若者にやると、ほぼ「おせっかい」になってしまう。「自分でネットで調べます…」って言われるのがオチです。

JG 現場ありきの遊びですから、現場での指導や学習はとうぜんのことなんですけどね。



2010年YEARBOOKに記載された「最長再捕期間を更新したスズキ」は、チーム・バボバボの平松氏の記事です。リリースという行為は我々には「ごくごく普通の事」でした。ちなみに平松氏は、2022年頃よりクラブチーム JX金属製錬 Fishing Clubとして当協会に再加入していただきました

YZ 私は、沖の堤防などで趣味の黒鯛釣りなどをやるんですが、協会の広報委員長を拝命しておりますから、釣りで出会った人たちに協会のことを聞いてみる必要があります。タグ&リリースのことを紹介しても、ほとんど認知されていません。リーチの仕方をいくつも持っていないといけな、と痛感しています。

JG 釣り人と人との関わりが急変しているとは感じます。釣りという行為自体、ライバルは少ない方が良いという大前提は変わりがないわけですね。でも仲間はいたほうが楽しい。その矛盾を解消するための方策がキャッチ&リリースだったりするわけです。他人との共存はもはや避けられない。

YZ 私くらい年になりますと、「やかましいおじさんだなあ」と思われても、マナーや理念の話は、責任としてやっていたかなければという気もしています。

JG 川釣りの話でいくと、先行者がいた場合の対応なども昔とは変わってきました。それぞれの釣り方がよくわからないから、妥当な距離感がわからなくなっているんですね。釣り上がっていくのに、すぐ上のポイントに入られたりするとアレとなるんですが、たんに距離感の意識がない、初めたての若者だったりすると、きちんとお話をしあげたほうが役立つだろうと思いますね。実際問題として、現場でどんな説明をするのかは難しいですけど。

YZ 昨今のウェブ動画の風潮ですと、釣りだけでは再生数が伸びず、キープして料理しておいしかった、で締めくくるといいんですって。私たちがよく言って

いるのは、釣った魚をリリースしてあげると、何度でも美味しい酒が飲めるよ、ということなんです。

JG 釣りと魚にとって、とても大切なことが表現されていますね。

YZ 去年私が釣った魚がまだ生きていて、着々と成長していると想像すれば、またいつ釣れるかドキドキしますよ。「他の人に釣られるなよ」と言い聞かせて放してあります。

JG 昨今のトレンド、食のトレーサビリティの話は、こと釣りに過剰適用するのは諸刃だと思っています。もちろん何を食べているのかを自ら理解するのは大事なことです。アマチュアがもっとも簡単に食材を入手できる行為としての釣りは、じゅうぶん注意しないと影響は甚大だと思います。「釣ったら食べなきゃ」なんていうキャッチフレーズは時代錯誤です。私だったら、大好きな魚は逃がして、店で買った豆腐を食べるといった選択肢を持っています。節度のある釣獲と食はたしかに楽しいですけど…

YZ 白黒の両極しか判断ができない人も多いですから、それも問題です。もちろん私は魚を食べるのも好きですし、アジの開きなんて最高だと思いますが、アジ1尾をクロダイの50センチ、イシダイの4kg とは同列に扱えない。

JG 命に順位をつけたくはありませんが、自然界の食物ピラミッドは階層でできています。食べるなら、アジやサバやイワシですかね…昨今はそれすら資源があやしくなっています。

YZ 私が愛してやまないクロダイ、イシダイ、果てはターボンといった魚たちを

いつまでも釣るための仕組みが、キャッチ&リリースやバググリミットだと思っています。その出会いを大事にするために、ノットやタックルやテクニックを磨きたい。同好の仲間たちと釣りを楽しむために、マナーや不文律を共有したい。このつながりというか、パッケージ全体が重要ですね。この深い遊びの楽しみ方を、広く皆さんに提案していくのが私たちの仕事かも知れません。こだわればそれだけ選択肢が増えて、深みが見えてくる。でも大前提として、魚がいないと何にも始まらない。丸橋さんの口ぐせですね。口を使う魚が、ウジャウジャいてほしい。釣れる・釣れないは個体の遺伝子的な違いも関係しているという本がありましたけれど、釣れる魚を持って帰ってしまうと、どんどん釣れなくなる恐れがあります。もう1つ困っているのは、情報のギャップです。諸外国で発表されている論文とかの内容も、なかなかこちらには入ってきません。

JG 雑誌やテレビなど、メインストリームなメディアで釣りを深く取り上げるものが少なくなったことは否定できませんね。

YZ どなたかからコピーをもらった、米国人が書いた論文の内容を覚えているんですが…池に入れたニジマスを一所懸命釣りで捕獲してみたら、1日でどれくらい釣れるかという。たしか6割でした。千匹いる池だと、六百匹が初日で釣られる。

JG 私に、それに同意する確たる根拠はないですが、当たっている感じがします。

YZ 10日もそれを続けると、ほとんど残っていないんですって。同じようなことは、海でも起こりえます。でも、皆さん海は広くて資源は無尽蔵と思っているから、危機感を持ってもらうのが難しいです。あと「潮が悪かった」という言い訳。

JG 囲われているわけではなく、想像力が働きにくい大きさですからね。

YZ 川にしても、ヤマメやイワナはじつに正確に、俊敏に流れてくる餌を捕食するでしょう。とすれば、持って帰りたい釣り師のハリにも高確率でかかるわけで、



95年のコストリカ釣行から付き合いのある中さんと大野川の神原渓谷へ釣行した際の1枚。10年が経ち、お互いに年を取りました



コロナ前の浜名湖釣行、杉浦雄三氏のガイドでクロダのサイトフィッシング

無規制の野放しにしたらあつという間に川は空っぽになるのが現状です。私がやって欲しい研究の1つは、条件をできるだけ近く設定した上での、キャッチ&リリース区間と持ち帰り自由区間の、魚の残り方の比較です。解禁してから一定期間が経過したあと、どれくらいの差が出るのか。キャッチ&リリースと持ち帰りの違いは、魚を釣ることと食べることのどちらを重視するのかということに帰結します。私たちは、魚を釣ることを最重点に置きたいと思うんですが、持って帰りたい人とは釣り場を分けることも考えないといけなんでしょうね。キャッチ&リリースの釣り場ですと、魚はどんどん賢くなってフライやルアーを見切るようになるでしょうが、いないよりはずっとましです。

JG 実際にそのような管理手法を取り入れている川もぼつぼつ現れてきています。また海外の話になりますが、カナダのブリティッシュコロンビア州の川でサケ類を釣るとなると、基本の釣り券に加え、持ち帰り料金を追加で払わないといけない場合もあります。リミットは厳しく、資源量によって短期で見直しが行われ、体長制限も課されます。それも1つのやり方ですね。

YZ いま各地で熱心に活動している人たちの柱的な役割をどう担っていくか、協会もいま一度考えなければならぬんじゃないかとも思います。

JG もう一回、大きな声で魚と環境のことを語るやりかたを検討しなければならない。

YZ そうしないと、地方の荒廃が進んでしまう気がします。首都圏の人たちが遠出をして、楽しむだけの目的地ではよくない。しかし、数少ない地元オピニオンリーダーたちが脱落していくと、気持ちが断絶してしまうんですね。そんな芽が出てきたら、力強く支援をしてあげたい。同じことを、力強く思い続けるのってけっこうパワーが必要で、大変なことですから。

JG イベント支援キット、キーパーソン支援キットのようなものもパッケージとして設計する必要があるかも知れません。広報委員長としてのお立場から、さらにどんなことを検討されていますか？

YZ もちろん、協会の認知度を上げることには継続的に取り組んでいかないといいませんが、フィッシングショーなどの見本市に出展する、ないし子供たちやファミリーに軸足を置いた「フィッシングキャンプ」だけでは足りませんね。それはあくまで下ごしらえやジャブ。そして下ごしらえの作業は、協会のアンバサダーや協力的なプロアングラータちにもお手伝いいただきたいです。「この魚は小さいから将来のためにリリースね」「今日はたくさん釣れたから、もうのこりはすべてリリースしましょう」とか、スマートに紹介してもらう。私たちが擁している、ない

し賛同者として近くにいるくれる、よい先生たちと、多くの釣り人が出会ってほしいですね。

JG それと同時に、実際に釣りに真剣に取り組んでいる大人のアングラータちを惹きつける広報施策が大事かと思います。ネット上で、しかも質の高い情報と思いを届けたいといけな。

YZ かつて五千人ちかく会員がいた時代は、後援や協賛を行った釣り大会が各地でそうとう開かれていました。それを現代的に補うのが、JGFAのYouTubeチャンネルとも考えていて、そういったところから着実に新施策を採用していきたいと思っています。

JG 歴史ある組織の中で、新しい人たちにリーチしなおす作業をやらなければならない時代に来ています。各地にタネを蒔き直す、草の根本的な仕事も伴いますが、理事も若返っていますので、そこにも期待したいと思います。本日はありがとうございました。



NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンジス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズキに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためです、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<マツダイ> TRIPLETAIL / *Lobotes surinamensis*

●M-6kg(12lb)クラス ●1.72kg ●神奈川県相模湾 ●1997-8-7 ●助川 博也 ●サバロ ●海雄丸

<キジハタ> GROUPER, Hong Kong / *Epinephelus akaara*

●M-15kg(30lb)クラス ●2.21kg ●島根県隠岐郡西ノ島沖 ●2023-5-4 ●木下 煌生 ●ANNET ●優心

J

<マダラ> COD, Pacific / *Gadus macrocephalus*

●M-3kg(6lb)クラス ●4.75kg ●青森県階上町沖 ●2025-2-23 ●前田 穰 ●レギュラー会員 ●第三正栄丸

<ボラ> MULLET, striped / *Mugil cephalus*

●M-1kg(2lb)クラス ●1.87kg ●広島県大島神島筏 ●2025-5-18 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●シンエイ渡船

CR

<ボラ> MULLET, striped / *Mugil cephalus*

●M-3kg(6lb)クラス ●2.36kg ●広島県大島神島筏 ●2025-5-18 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●シンエイ渡船

CR

<シイラ> DOLPHINFISH / *Coryphaena hippurus*

●W-8kg(16lb)クラス ●14.15kg ●与那国島沖 ●2025-2-28 ●中井 遥子 ●ファミリー会員 ●第八暁丸

W

OFF SHORE JUNIOR <船からの釣り・ジュニア>

<キジハタ> GROUPER, Hong Kong / *Epinephelus akaara*

●M-15kg(30lb)クラス ●2.21kg ●島根県隠岐郡西ノ島沖 ●2023-5-4 ●木下 煌生 ●ANNET ●優心

J



前田 穰 <マダラ 4.75kg>
マダラが浅場による時期を狙って釣ることができました



田村 紘一 <ボラ 2.36kg>
群れが散ったので通り掛かった2匹を足止めて掛けました、嬉しかったです



中井 遥子
<シイラ 14.15kg>
寄せて大物を狙いましたが、集まってきた時が最高にワクワクします。一度はラインが切れたので、緊張しながら再挑戦しました

SHORE <岸(磯)からの釣り>

<キジハタ> GROUPER, Hong Kong / *Epinephelus akaara*

●M-3kg(6lb)クラス ●2.47kg ●山口県下関関門 ●2000-12-30 ●片岡 鉄也 ●CLUB FISHERMAN

<メジナ> BLACKFISH, largescale / *Girella punctata*

●M-1kg(2lb)クラス ●1.21kg ●山口県富田川 ●2025/2/16 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<メジナ> BLACKFISH, largescale / *Girella punctata*

●M-1kg(2lb)クラス ●1.30kg ●高知県土佐清水市 ●2025-3-30 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<クロメジナ> BLACKFISH, smallscale / *Girella melanichthys*

●M-1kg(2lb)クラス ●0.95kg ●高知県土佐清水市 ●2025-4-6 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<バラフエダイ> SNAPPER, twospot red / *Lutjanus bohar*

●M-10kg(20lb)クラス ●6.50kg ●東京都小笠原母島列島ホカケ岩 ●2025-4-28 ●前田 穰 ●レギュラー会員

CR



由岐 直久

<メジナ 1.30kg>

2lbのラインクラスは3回目の挑戦。過去2回は規定の負荷でラインが切れず認定されませんでした。今回はバリバスのライン、さすがです



CR

前田 穰

<バラフエダイ 6.50kg>

潮回りのせい、魚の活性が高まった午後に釣れました

FRESHWATER FISHING <淡水の釣り>

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-2kg(4lb)クラス ●9.76kg ●埼玉県荒川 ●2025-2-4 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-1kg(2lb)クラス ●9.27kg ●埼玉県荒川 ●2025-2-19 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-4kg(8lb)クラス ●12.11kg ●埼玉県荒川 ●2025-2-28 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-1kg(2lb)クラス ●1.54kg ●山口県佐波川水系 ●2025-3-23 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-3kg(6lb)クラス ●10.29kg ●埼玉県荒川 ●2025-3-27 ●椎名 幹 ●マーメイドアングラズクラブ

CR

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-2kg(4lb)クラス ●1.76kg ●山口県佐波川水系 ●2025-4-5 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-4kg(8lb)クラス ●1.91kg ●山口県佐波川水系 ●2025-4-12 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<コイ> CARP, common / *Cyprinus carpio*

●M-8kg(16lb)クラス ●19.80kg ●滋賀県米原市淀川水系 ●2025-4-12 ●樋口 大輔 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idella*

●M-24kg(50lb)クラス ●25.78kg ●埼玉県荒川水系 ●2025-5-8 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<コイ> CARP, common / *Cyprinus carpio*

●M-60kg(130lb)クラス ●5.95kg ●埼玉県荒川 ●2025-5-20 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<チャンネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-15kg(30lb)クラス ●2.30kg ●茨城県潮来市外浪逆浦 ●2025-4-11 ●中井 遼子 ●ファミリー会員

W

CR

<チャンネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-8kg(16lb)クラス ●4.85kg ●茨城県稲敷市霞ヶ浦 ●2025-4-12 ●加藤 涼葉 ●ジュニアアングラズクラブ

JW

CR

<ニジマス> TROUT, rainbow / *Oncorhynchus mykiss*

●W-1kg(2lb)クラス ●1.14kg ●群馬県利根川支流 ●2025-4-16 ●中村 渚 ●フィッシュ&フィンズ

W

FRESHWATER FISHING JUNIOR <淡水の釣り・ジュニア>

<チャンネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-8kg(16lb)クラス ●4.85kg ●茨城県稲敷市霞ヶ浦 ●2025-4-12 ●加藤 涼葉 ●ジュニアアングラズクラブ

JW

CR



椎名 幹
＜ハクレン 10.29kg＞
ようやく自身の及第点
サイズが釣れました



竹内 尚哉 ＜ソウギョ 25.78kg＞
狙いをつけていたはじめての場所でソウ
ギョを狙い、25.78kgを仕留めました。足
場が悪く取込みに2時間要しました



加藤 涼葉 ＜チャネルキャットフィッシュ 4.85kg＞
近くに寄せてからの引きが強く、キャッチまでが大変でした



中村 渚
＜ニジマス 1.14kg＞
きれいなニジマスで嬉しいです

SALTWATER FLY FISHING ＜海水のフライフィッシング＞

＜マツダイ＞ TRIPLETAIL / *Lobotes surinamensis*

●M-8kg(16lb)クラス ●0.90kg ●静岡県遠州灘沖 ●2008-8-15 ●西倉 直樹 ●ティール ●久丸

＜ミナミマゴチ＞ FLATHEAD, bar-tailed / *Pratycephalus indicus*

●M-10kg(20lb)クラス ●0.70kg ●宮古島 ●2025-1-17 ●吉富 健志 ●フィッシュ&フィンズ

CR



吉富 健志
＜ミナミマゴチ 0.70kg＞
今回は冬季遠征で水温も低
く限られた釣行期間だった
ので、ターゲットとしていた
魚種を釣る事ができ良かった
です



FRESHWATER FLY FISHING ＜淡水のフライフィッシング＞

＜オオクチバス＞ BASS, largemouth / *Micropterus nigricans*

●M-10kg(20lb)クラス ●4.18kg ●滋賀県琵琶湖 ●2025-4-23 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ

＜オオクチバス＞ BASS, largemouth / *Micropterus nigricans*

●M-8kg(16lb)クラス ●3.10kg ●滋賀県琵琶湖 ●2025-4-23 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ ●ウィザード330

ALL TACKLE ＜オールタックル日本記録＞

＜クロヒラアジ＞ TREVALLY, blue / *Carangoides ferdau*

●オールタックル ●2.84kg ●沖縄県宮古島 ●2024-3-30 ●松本 利幸 ●レインボーキャブ

WR CR

＜ハモ＞ PIKE-CONGER, daggertooth / *Muraenesox cinereus*

●オールタックル ●3.92kg ●宮崎県日向市美々津 ●2025-1-3 ●高光 康仁 ●レギュラー会員

＜マハタモドキ＞ GROUPER, eightbar / *Hyporthodus octofasciatus*

●オールタックル ●1.85kg ●鹿児島県奄美大島沖 水深230m ●2025-3-21 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●みなみ丸II

<チカメエチオピア> POMFRET, lustrous / *Eumegistus illustris*

●オールタックル ●3.85kg ●沖縄県西表島上原沖 水深520m ●2025-4-5 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●うみ日和・安漁丸III

<ヨコシマクロダイ> BREAM, humpnose big-eye / *Monotaxis grandoculis*

●オールタックル ●1.75kg ●沖縄県西表島上原沖 水深60m ●2025-4-5 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●うみ日和・安漁丸III

TR

<タイリクスズキ> TAIRIKUSUZUKI / *Lateolabrax maculatus*

●オールタックル ●9.70kg ●高知県高知市下田川 ●2025-4-16 ●前田 尚俊 ●レギュラー会員 ●りよう丸

<ヒトミハタ> GROUPE, greasy / *Epinephelus tauvina*

●オールタックル ●0.50kg ●沖縄県北谷海岸 ●2025-4-20 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ヨロイザメ> SHARK, Kitefin / *Dalatias licha*

●オールタックル ●9.85kg ●神奈川県平塚沖水深250m ●2025-4-25 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●H2O

<シロダイ> BREAM, Japanese large-eye / *Gymnocranius euanus*

●オールタックル ●2.24kg ●鹿児島県喜界島沖 ●2025-4-29 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●天人菊

<ナイルティラピア> Tilapia, nile / *Oreochromis niloticus*

●オールタックル ●4.37kg ●愛知県名古屋市庄内川水系 ●2025-5-1 ●樋口 大輔 ●レギュラー会員

CR

<アオノメハタ> HIND, peacock / *Cephalopholis argus*

●オールタックル ●1.10kg ●沖縄県宮古島市狩俣リーフ ●2025-5-11 ●永間 智明 ●レギュラー会員

CR

<スナガレイ> FLOUNDER, sand / *Limanda punctatissima*

●オールタックル ●0.55kg ●北海道噴火湾水深15m ●2025-5-14 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●ラブーン

CR

<スナガレイ> FLOUNDER, sand / *Limanda punctatissima*

●オールタックル ●0.55kg ●北海道噴火湾水深15m ●2025-5-14 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●ラブーン

W CR



WR
CR

松本 利幸 <クロヒラジ 2.84kg>
ブルーの魚影の進行方向にフライを落とすとヒット!
重量級のファイトでした



高光 康仁 <ハモ 3.92kg>
オオニベ狙いの遠征中、メタルジグのフォールに反応してくれました



坂本 幸博 <チカメエチオピア 3.85kg>
簡単に釣れるだろうと思ったが苦戦。仕掛けを変更し底まで鎮めるといきなりヒットしました。同じポイントで再挑戦しましたが何も釣れず、奇跡の1匹に



TR

前田 尚俊 <タイリクスズキ 9.70kg>
言葉が出てこない時間。静かに唾をのみ込みランディングをしました。感無量、ありがとうございます



CR

樋口 大輔 <ナイルティラピア 4.37kg>
ティラピアが泳いでいたのでバイブレーションを投げ、ボトムをズル引き&ポーズで煙幕を立てて食わせました



西野 勇馬 <ヨロイザメ 9.85kg>
本種は釣りによる深海調査を始めた当初から狙っている種であり、約8年を要したとても嬉しい1尾でした。さらに更新を目指して続けていきたいです



CR

永間 智明
<アオノメハタ 1.10kg>
日本記録いったー!!!って思いました。前から狙っていたので嬉しかったです!

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レンジスレコード>

<オオニベ> MEAGRE, Japanese / *Argyrosomus japonica*

●レンジスレコード ●64cm(叉長) ●宮崎県日向市美々津 ●2025-1-3 ●高光 康仁 ●レギュラー会員

AL CR

<マルタ> REDFIN, Pacific / *Tribolodon brandti*

●レンジスレコード ●54cm(叉長) ●埼玉県柳瀬川 ●2025-4-5 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

AL CR

<メジナ> BLACKFISH, largescale / *Girella punctata*

●レンジスレコード ●45cm(叉長) ●高知県土佐清水市 ●2025-4-12 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

AL CR

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●レンジスレコード ●45cm(叉長) ●山口県佐波川水系 ●2025-4-20 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

AL CR

<マルタ> REDFIN, Pacific / *Tribolodon brandti*

●レンジスレコード ●55cm(叉長) ●宮城県名取川 ●2025-5-17 ●前田 穰 ●レギュラー会員

AL CR



田村 紘一
<アマゴ(サツキマス) 45cm(叉長)>
イタドリがにょぎによき。霧雨の釣りでした



ALL TACKLE FLY LENGTH RECORD <オールタックル・フライ・レンジスレコード>

<ヒラスズキ> SEABASS, blackfin / *Lateolabrax latius*

●フライ・レンジスレコード ●64cm(叉長) ●長崎県宇久島倉の鼻 ●2024-12-6 ●杉中 沙樹人 ●レギュラー会員

FAL WR TR

<カムルチー> SNAKEHEAD / *Channa argus*

●フライ・レンジスレコード ●80cm(叉長) ●佐賀県佐賀クリーク ●2025-4-18 ●斉藤 悦朗 ●鉄心倶楽部

FAL CR

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Mugil cephalus cephalus*

●フライ・レンジスレコード ●87cm(叉長) ●高知県浦戸湾 ●2025-4-30 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR

<マルタ> REDFIN, Pacific / *Tribolodon brandti*

●フライ・レンジスレコード ●57cm(叉長) ●宮城県名取川 ●2025-5-17 ●前田 穰 ●レギュラー会員

FAL CR

<ナマズ> CATFISH, amur / *Silurus asotus*

●フライ・レンジスレコード ●63cm(全長) ●青森県馬淵川 ●2025-5-26 ●前田 穰 ●レギュラー会員

FAL CR



杉中 沙樹人 <ヒラスズキ 64cm(叉長)>
ここぞというサラシから飛び出してきました!



前田 穰 <ナマズ 63cm(全長)>
降雨により水温が3℃下がり、ナマズの活性が高かった前日とは違った状況でしたが、唯一釣れたナマズが過去12年間の自己最長でした。

JUNIOR RECORD <ジュニア日本記録>

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-8kg(16lb)クラス ●4.85kg ●茨城県稲敷市霞ヶ浦 ●2025-4-12 ●加藤 涼葉 ●ジュニアアングラーズクラブ

JW CR



加藤 涼葉

<チャネルキャットフィッシュ 4.85kg>

(事務局より:日本記録・淡水の釣りのチャネルキャットフィッシュとおなじ魚です。コメントはそちらをご覧ください。)



10LB SEABASS CLUB <10ポンド・シーバスクラブ>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●M-10kg(20lb)クラス ●4.84kg ●大阪府大阪市住之江区南港沖 ●2025-4-20 ●猶原 正和 ●サバロ ●フジヤマ2

TR



猶原 正和

<スズキ 4.84kg>

関西ライトタックルトーナメントでストップフィッシング2分前に喰ってきた魚でした



「メーターオーバークラブ」の計測方法変更

淡水魚の大型種を対象とした「メーターオーバークラブ」の申請における計測方法が変更となりましたことを再度お知らせいたします。これまでは魚の全長での申請が必要でしたが、今後は「又長計測」に変更されます。この変更の理由として、魚の全長の計測方法が多様であり、正確な計測が難しいためです。又長計測はIGFAのルールに基づいており、4月1日以降に釣った魚から適用されます。

なおアカメ、カムルチー、ピワコオオナマズのようなラウンドテール(うちわ型)タイプの魚は、尾びれの最末端部で計測し、この全長計測はIGFAレングスレコードの計測方法に準じます。

●申請対象魚種:

コイ、ソウギョ、アオウオ、ハクレン、コクレン、カムルチー、ピワコオオナマズ、イトウ、アカメなど、又長1m以上の淡水魚

●申請条件:

釣った魚は写真撮影後、直ちにリリースすること

●使用メジャー:

正確なメジャーを使用。オールタックルレングスレコードに相当する場合はIGFA専用メジャー必須

●申請資格:

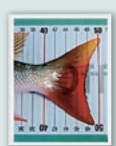
釣った時点でJGFA会員(サポート会員は除く)であること

●メーターオーバークラブ認定の流れ:

1. JGFAに入会
(申請資格は釣った時点でサポート会員を除くJGFA会員に限る)
2. メーターオーバークラブの対象魚を釣る
3. 記録申請用の写真を撮影(下記参照)
4. 記録申請書に必要事項を記入
5. 上記写真および申請書を釣った日より30日以内にJGFA事務局に送付審査(毎月1回、原則第1火曜日の夜に開催)
6. 審査結果通知(審査日以降2~3日以内に発送)

●魚体写真とその他申請に必要な写真:

- まず、正確なメジャーで魚体全体の写真を撮ります(中央)。次に、吻端部分を含む顔周りの写真(左)を撮影。最後に、尾ビレ末端の又長の目盛り位置が分かる写真(右)を撮ります。これらの写真に加えて、
- ・釣り人本人と魚と一緒に写っている写真
 - ・使用したタックル(ロッド&リール)
 - ・ルアー(使用した場合)などの写真を提出してください。



【2024年度タグ&リリース年間功労者】

選考基準は下記の通りです。

- (1) 昨年、候補にノミネートされた人で2024年度も頑張った人。
- (2) およそ50尾以上T&Rし、なおかつ再捕実績のあった人。
- (3) 数が少なく、釣るのが難しい魚、希少な魚は別立てとする(カジキ、アカメ、イシダイなど)
- (4) タグ尾数などについては地域性を考慮に入れる。
- (5) T&R推進活動にとくに貢献のあった人。
- (6) 一度受賞して5年以上経過した人は改めて候補となる。

2024年度実績

- (1) 実施人数(トーナメント時を除く): 112人(86+カジキ26)。2023年度は141人(93+カジキ48)
- (2) 放流尾数: 2024年度は4,222尾(4,126+カジキ96)。2023年度は3,908尾(3,814+カジキ94)
- (3) 再捕尾数: 111尾。2023年度は101尾



杉中 沙樹人さん

T&R功労者賞に選出いただき、ありがとうございます。タグアンドリリースの魅力は、標識番号で個体と向き合いやすくなり、愛着が湧くことだと思います。自分がリリースした個体が再捕され、無事に成長しているのを知ると感動します。これからも再捕の感動を楽しみに、活動を続けます。



花木 喜英さん

もともとはシーバスをもっとたくさん釣るために、魚の1年間の動きが知りたくて始めたT&R活動なのですが、年々釣れなくなっていることから、今では資源保護の役に立てないかという思いの方が強くなっています。シーバスを今後も釣り続けられるように、微力ながらお役に立てればと思います。



伊原 武志さん

タグ&リリース年間功労賞ありがとうございました。地元ではリリースする釣り人は少数派で、否定的な意見を頂くこともあります。魚がいての釣りなので、これからもこの活動は参加させて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。



谷 佳樹さん

この度は、このような賞を頂きありがとうございます。まさか自分がタグアンドリリース賞を頂けるとは夢にも思いませんでした。2025年6月7日より今年のカジキ釣りをスタートしました、写真は串本港で撮ったものです。今年も賞をいただける様に頑張ります！

2024年度 T&R年間功労者（表彰年は2025年）(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	選出理由
1	大阪府	杉中 沙樹人	レギュラー会員	2005年、2017年に受賞経験あり。計81尾をT&R(スズキ23、ヒラスズキ6、クロダイ45、カンパチ4、ギンガメアジ1、キチヌ2)。再捕実績は、1尾。
2	東京都	花木 喜英	レギュラー会員	初受賞。主にスズキにタグを打ち、計48尾をT&R(スズキ37、クロダイ4、マダイ2、その他5)。再捕実績は、1尾。
3	徳島県	伊原 武志	レギュラー会員	受賞歴2018年。ヒラスズキ43尾にT&R。再捕実績は、1尾。
4	大阪府	谷 佳樹	ブルファイター	BOL西日本所属。2018年にも受賞。クロカジキ4尾、マカジキ7尾をT&R。

2024年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2024年度の実績	受賞年
1	埼玉県	加藤 靖暁	マーメイドアングラーズクラブ	計337尾(スズキ319、クロダイ 12、マゴチ2、マダイ3、キチヌ1)	09、19
2	東京都	木村 則夫	ブルーウインド	計280尾(ヒラスズキ25、カスミアジ3、カンパチ122、ギンガメアジ113、クエ1 ヒラマサ13 ロウニンアジ2、その他1)	20
3	東京都	泉 勇也	マーメイドアングラーズクラブ	計223尾(スズキ195、マゴチ5、マダイ14、その他9)	22
4	千葉県	山口 徹	レギュラー会員	計204尾(ヒラマサ203、ブリ1)	11、18、24
5	神奈川県	塚原 一三	マーリンマイスタークラブ	計202尾(スズキ187、ヒラスズキ2、クロダイ3、ブリ7、アイナメ3)	22
6	大阪府	小西 雅樹	スブラッシュ	計189尾(スズキ150、ヒラスズキ1、クロダイ35、ブリ2、キチヌ1)	
7	大阪府	和氣 恒久	サバロ	計178尾(スズキ 87、クロダイ90、キチヌ1)	99、13、20
8	大阪府	河本 行弘	レギュラー会員	計162尾(スズキ94、クロダイ68)	12、23
9	兵庫県	福井 悠太	レギュラー会員	計123尾(スズキ122、アカメ1)	
10	神奈川県	福永 雄海	横浜ビルフィッシュクラブ	計113尾(スズキ108、その他5)	00
11	千葉県	猶原 正和	サバロ	計106尾(スズキ 56、ヒラスズキ33、クロダイ4、ブリ2、カンパチ1、ギンガメアジ3、 スマ3、タイリク1、ヒラメ1、マダイ2)	06、19
12	東京都	東辻 雄平	レギュラー会員	計104尾(クロダイ102尾、その他2)	
13	静岡県	丸尾 明公	レギュラー会員	計99尾(クロダイ96、ボラ1、マゴチ1、キチヌ1)	
14	高知県	前田 尚俊	レギュラー会員	計97尾(アカメ97)	22
15	大阪府	前田 大介	レギュラー会員	計97尾(スズキ95、ヒラスズキ1、キジハタ1)	
16	大阪府	中村 幸平	シマノOCEA	計95尾(スズキ15、ヒラスズキ78、アカメ2)	24
17	大分県	財前 雄一郎	レギュラー会員	計90尾(スズキ11、ヒラスズキ2、クロダイ54、インダイ5、ヒラメ3、マゴチ1、 マダイ2、キチヌ11、その他1)	13
18	岩手県	村脇 健司	レギュラー会員	計88尾(スズキ23、ヒラメ6、マゴチ7、クロソイ3、その他49)	
19	熊本県	高木 真也	アップストリームSAC	計77尾(スズキ12、ヒラスズキ11、タイリク54)	09、19
20	神奈川県	大久保 和弘	レギュラー会員(元グルーパーボーイズ)	計71尾(スズキ27、ヒラスズキ1、クロダイ35、マゴチ1、ヒラメ6、その他1)	01、22
21	東京都	高筒 敦彦	ブルーウインド	計64尾(スズキ58、ヒラスズキ6)	05、17、24
22	神奈川県	伊藤 義明	レギュラー会員	計59尾(スズキ33、ヒラスズキ5、クロダイ19、インダイ1、ヒラマサ1)	14、20
23	徳島県	柿田 朋哉	サバロ	計57尾(スズキ32、クロダイ8、インダイ 2、メジナ14、キチヌ1)	21
24	神奈川県	長田 茜	レギュラー会員	計56尾(スズキ55、マダイ1)	

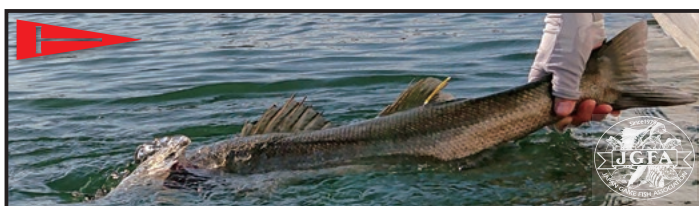
【2024年度タグ&リリース年間功労者】

2024年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2024年度の実績	受賞年
25	大阪府	田中 大喜	スブラッシュ	計51尾(スズキ43、クロダイ2、タイリク1、キジハタ2、その他3)	20
26	茨城県	小松 雅弘	カウントダウンフィッシングクラブ	計50尾(スズキ48、ヒラメ1、マゴチ1)	03、14、20
27	大阪府	川崎 禎昭	クラブスポーツOSAKA	計49尾(スズキ47、クロダイ1、マダイ1)	
28	高知県	奴田原 寿展	レギュラー会員	計47尾(アカメ47)	23
29	茨城県	渡邊 洋治	カウントダウンフィッシングクラブ	計45尾(スズキ45)	10、20
30	北海道	加藤 達也	レギュラー会員	計40尾(ブリ32、ヒラマサ1、その他7)	
31	広島県	神村 敬司	レギュラー会員	計38尾(スズキ38)	
32	茨城県	小松 孝尉	カウントダウンフィッシングクラブ	計32尾(スズキ1、ヒラメ27、マゴチ4)	
33	愛知県	田島 雅大	SOLDIRO	計29尾(マゴチ29)	
34	静岡県	小野田 賢一	SOLDIRO	計28尾(マゴチ28)	
35	大阪府	松浦 昌治	スブラッシュ	計27尾(クロダイ21、キチヌ6)	90、91、19
36	神奈川県	濱田 裕	レギュラー会員	計22尾(クロダイ20、キチヌ2)	21
37	香川県	芝 周作	レギュラー会員	計21尾(ヒラスズキ21)	
38	東京都	斉藤 悦朗	鉄心倶楽部	計21尾(ヒラスズキ21)	
39	大分県	景平 真明	レギュラー会員	計20尾(スズキ19、ヒラスズキ1)	15、21
40	高知県	由岐 直久	レギュラー会員	計19尾(アカメ19)	
41	山口県	松木 大輔	レギュラー会員	計19尾(サワラ1、マゴチ16、マダイ1、その他1)	
42	大分県	平松 雅直	JX金属製錬 Fishing Club	計19尾(スズキ4、クロマグロ2、マダイ8、その他5)	96
43	東京都	丸橋 英三	サバロ	計14尾(イシガキ14)	01、16、23
44	大分県	原田 智昭	バホバホ	計14尾(マゴチ1、その他13)	
45	兵庫県	長堀 寛	スブラッシュ	計12尾(ブリ12)	05
46	大阪府	下原 誠明	レギュラー会員	計10尾(クロダイ10)	
47	東京都	酒井 順一郎	サポート会員	計10尾(マゴチ10)	
48	静岡県	鈴木 忠文	レギュラー会員	計10尾(カンパチ3、ヒラマサ7)	
49	大阪府	高橋 健	レギュラー会員	計9尾(ヒラスズキ9)	18
50	千葉県	吉澤 竜郎	レギュラー会員	計8尾(ブリ4、カンパチ1、ヒラマサ2、ヒレナガカンパチ1)	
51	大阪府	山内 一美	ファイティングロッダーズ	計8尾(スズキ8)	
52	茨城県	森田 琢磨	サバロ	計8尾(スズキ2、ブリ2、カンパチ2、ヒラメ2)	
53	静岡県	服部 真司	レギュラー会員	計8尾(ヒラスズキ2、ヒラメ5、マゴチ1)	
54	千葉県	標 信男	レギュラー会員	計2尾(計7尾(マダイ6、その他1)ヒラマサ2)	
55	愛媛県	首藤 康裕	レギュラー会員	計6尾(スズキ2、ヒラスズキ4)	

2024年度のT&R活動に貢献して頂いた方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2024年度の実績	受賞年
56	千葉県	島田 勝美	ワイルドオーシャン	計6尾(スズキ1、ヒラスズキ5)	01
57	愛知県	百合草 諒	レギュラー会員	計6尾(マゴチ6)	
58	沖縄県	富松 賢祐	レギュラー会員	計6尾(ロウニンアジ6)	
59	高知県	長野 博光	レギュラー会員	計5尾(アカメ5)	01
60	山形県	星川 徹	レギュラー会員	計5尾(ブリ5)	18
61	神奈川県	長谷川 貴洋	レギュラー会員	計5尾(スズキ5)	
62	埼玉県	平井 忠	レギュラー会員	計5尾(クロダイ3、ブリ1、カンパチ1)	
63	大分県	松山 雅彦	バホバホ	計4尾(スズキ4)	
64	神奈川県	津田 雅弘	レギュラー会員	計8尾(クロダイ4、イシガキ3、インダイ1)	
65	東京都	本田 吉樹	レギュラー会員	計4尾(マゴチ4)	
66	富山県	武田 博樹	レギュラー会員	計3尾(ヒラメ1、マゴチ2)	
67	大阪府	出水 鉄次	レギュラー会員	計3尾(クロダイ3)	
68	群馬県	松田 悠汰	レギュラー会員	計3尾(ブリ2、ヒラマサ1)	
69	東京都	岡野 伸行	レインボーキャブ	計2尾(クロダイ2)	
70	愛媛県	吉清 良輔	レギュラー会員	計2尾(ヒラマサ2)	
71	和歌山県	中前 悦尚	歌舞伎者	計2尾(クロマグロ2)	10、21
72	鹿児島県	牧之瀬 幸一	サポート会員	計2尾(イシガキ2)	
73	東京都	堀江 幸雄	ファイティングロッダーズ	計2尾(スズキ2)	
74	神奈川県	谷口 公彦	レギュラー会員	計1尾(ロウニンアジ1)	
75	兵庫県	高光 康仁	レギュラー会員	計1尾(アカメ1)	
76	大分県	宮崎 威征	レギュラー会員	計1尾(スズキ1)	
77	東京都	江川 典男	WILD OCEAN	計1尾(ヒラスズキ1)	09
78	千葉県	杉本 真一	レギュラー会員	計1尾(その他1)	10、23
79	北海道	菅原 潤	クラブゴールデンドリーム	計1尾(ブリ1)	16
80	愛知県	長坂 理	レギュラー会員	計1尾(マゴチ1)	18
81	東京都	福岡 勝	レギュラー会員	計1尾(マゴチ1)	
82	島根県	本村 省吾	レギュラー会員	計1尾(スズキ1)	



タグ&リリースを始めていただいた方をピックアップ！

前田 大介さん

■なぜタグ&リリースを始めたのか

私は大阪の堺市を拠点に年中スズキを狙って釣りをしています。タグ&リリースを始めるまでに、これまで何度も同じスズキ？と思われる魚を同じ川で再捕したことがありました。特徴的な傷があったのでわかったのですが、「もしかして他にも同じ魚を毎年同じようなタイミングで釣っているのかも？」と思うようになりました。年々、私が釣りをするポイント

のスズキが私の「手」を嫌い始めているような気がしていたからです。それでも、新たなルアーや、これまで試していなかったようなトレースコースで釣りをしてみると釣れたりすることから、「何度も自分がルアーを見せてきた魚たちなのかも？」と感じていました。また年々川が浅くなり、夏が異常なまでに暑くなってスズキが釣れる数も減り、危機感を覚えたこともタグ&リリースに興味を持つキッカケとなりました。



■実際にT&Rを行ってみての感想

友人が釣ったスズキにタグを打たせてもらいリリースすると、その20日後に全く同じポイントで今度は私がその魚を再捕しました。最初に友人が釣った時よりも痩せて見え、タグがなければ同じ魚だとわからなかったと思います。しかも1度目に釣れたときと同じぐらいの潮位で、まったく同じポイントで釣れたので、スズキにも好みのポイントがあって、似たようなタイミングでエサを獲っている、ということが言える例だと思います。川だけでなくボートから釣れるスズキにもタグを打ってリリースしているのですが、どうも海の魚は海で再捕獲される率が高いように感じています。岸からは届かない河口にいるスズキをボートからタグ&リリースして、今度はその魚が川の中で再捕獲されるタイミングはないかと試していますが、まだその釣果は得られていません。この広い水辺で途方もないテーマかもしれませんが、これからも引き続き探っていきたいことの一つです。いかに一匹のスズキが貴重であるか、リリースの重要性を身をもって実感できたので、微力ではありますが、これからもこの体験を発信していきたいと思っています。

福井 悠太さん

■なぜタグ&リリースを始めたのか

年間を通してスズキ釣りをする中で、明らかに同じ魚を釣ってしまっていると気づく場面が何度かありました。魚体に特徴のある個体は、タグが無くても同じ魚だと気づくことができるのですが、そうではない大半の個体は気づくことができません。釣り人が想像している以上に同じ魚を何度も釣っているのでは？と疑問を持ったのが、タグ&リリースを始めたきっかけです。



■実際にT&Rを行ってみての感想

2024年夏頃に本格的にタグ&リリースを始めてから約半年間で想像以上に自分自身での再捕がありました。中にはリリースした地点から離れた場所で体型が大きく変わった(太った場合も痩せた場合もありました)状態で再捕した個体もあります。このようなケースはこれまでタグが無ければ別の魚と認識していましたが、当初の予想通り、想像以上に同じ魚を釣っているという事実が明らかになりました。リリースした魚が無事に生きてくれているという嬉しさと、数はそこまで多くないのでは？という不安で複雑な感情でした。

釣った魚を海に帰す以上、普段から最小のダメージを心掛けていましたが、この事実がわかって以来、魚の扱いにはより一層気をつけるようになっていきます。魚にタグを打つこと自体、魚を多少なりと傷つける行為ではありますが、得られる知見はその魚たちを守ることに繋がっていると思っています。

ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



ユニコン エンジニアリング(株)



賛助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典**
1. イベント後援 JGFA後援規定に基づくイベントをサポートいたします。
 2. 市場調査への協力 会員に向けて商品テスト・モニター・アンケート実施時にご協力します(諸費用実費)。
 3. 会員登録 貴社の代表者・担当者2名をJGFAおよび国際的な釣り団体IGFAの会員として登録。個人会員と同等の特典を得られます。日本記録を狙ってみてはいかがでしょうか。
 4. 各イベント参加への優遇 JGFAフィッシングキャンプのブース出展料無料など、主催イベントへの参加を優遇いたします。
 5. 広告および紹介
 - 会報「JGFA NEWS」への社名広告掲載
 - イヤーブック「賛助会員紹介ページ」に貴社を掲載
 - JGFA公式サイトにバナーリンクを掲載
 - 会員にむけてDMサービスの協力(諸費用実費)
- 会費** 1口 100,000円(1口以上)
- 備考** 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカー式スバゲティタグもダートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり4000円します。年間250セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様へお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただかせませんか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名: みずほ銀行 恵比寿支店
口座名: 「タグ アンド リリース活動資金」
口座No: (普) 1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2025/5/14	長鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2025/5/21	花木 喜英(正会員)	5,000
		合計: 24,000